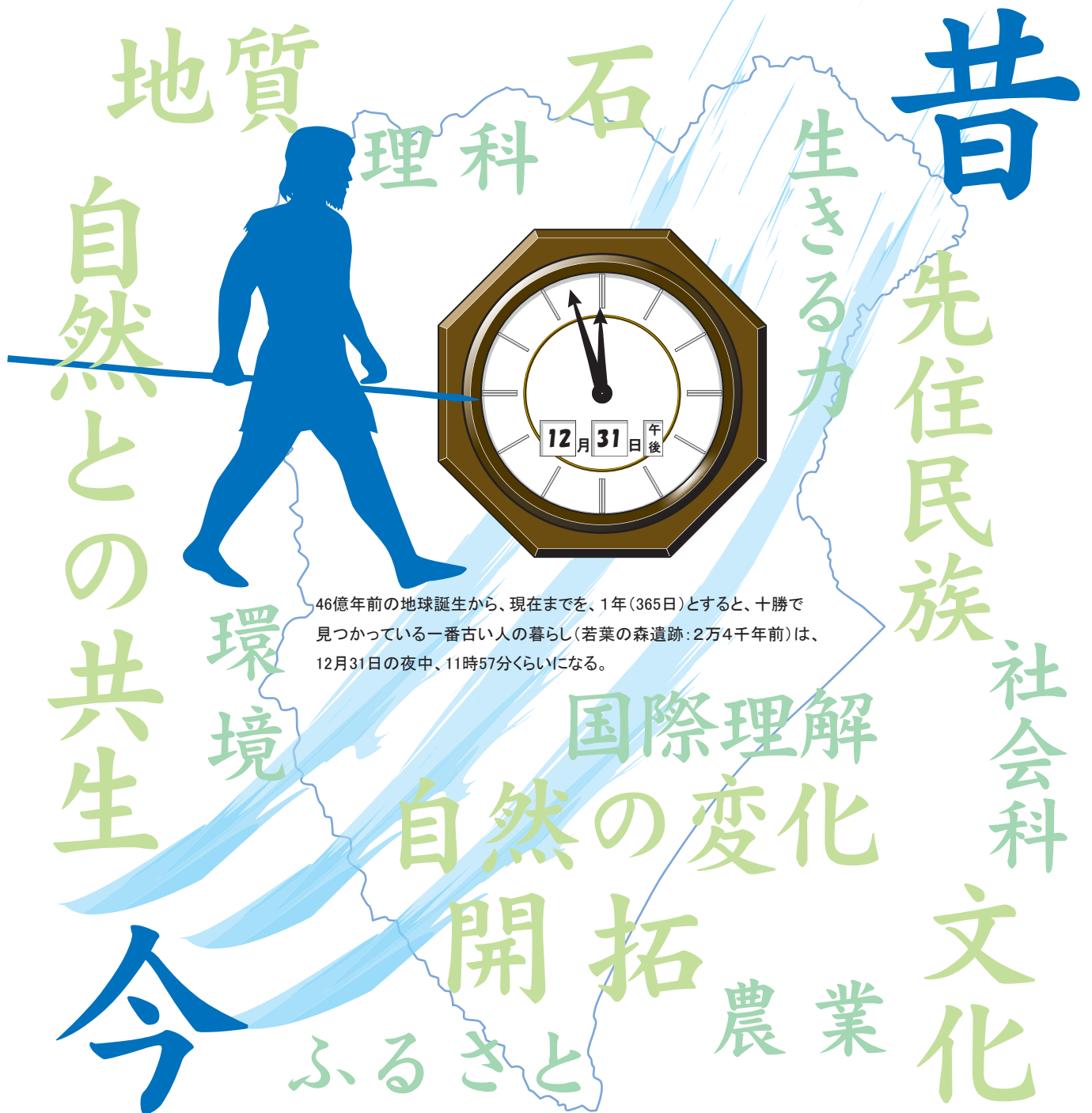


時をこえて 十勝の川を旅しよう！

十勝の川の成り立ちから、川の歴史・文化まで



46億年前の地球誕生から、現在までを、1年(365日)とすると、十勝で見つかった一番古い人の暮らし(若葉の森遺跡:2万4千年前)は、12月31日の夜中、11時57分くらいになる。

十勝の川と地形

(→ 第1章 十勝の平野や川ができるまで p17)

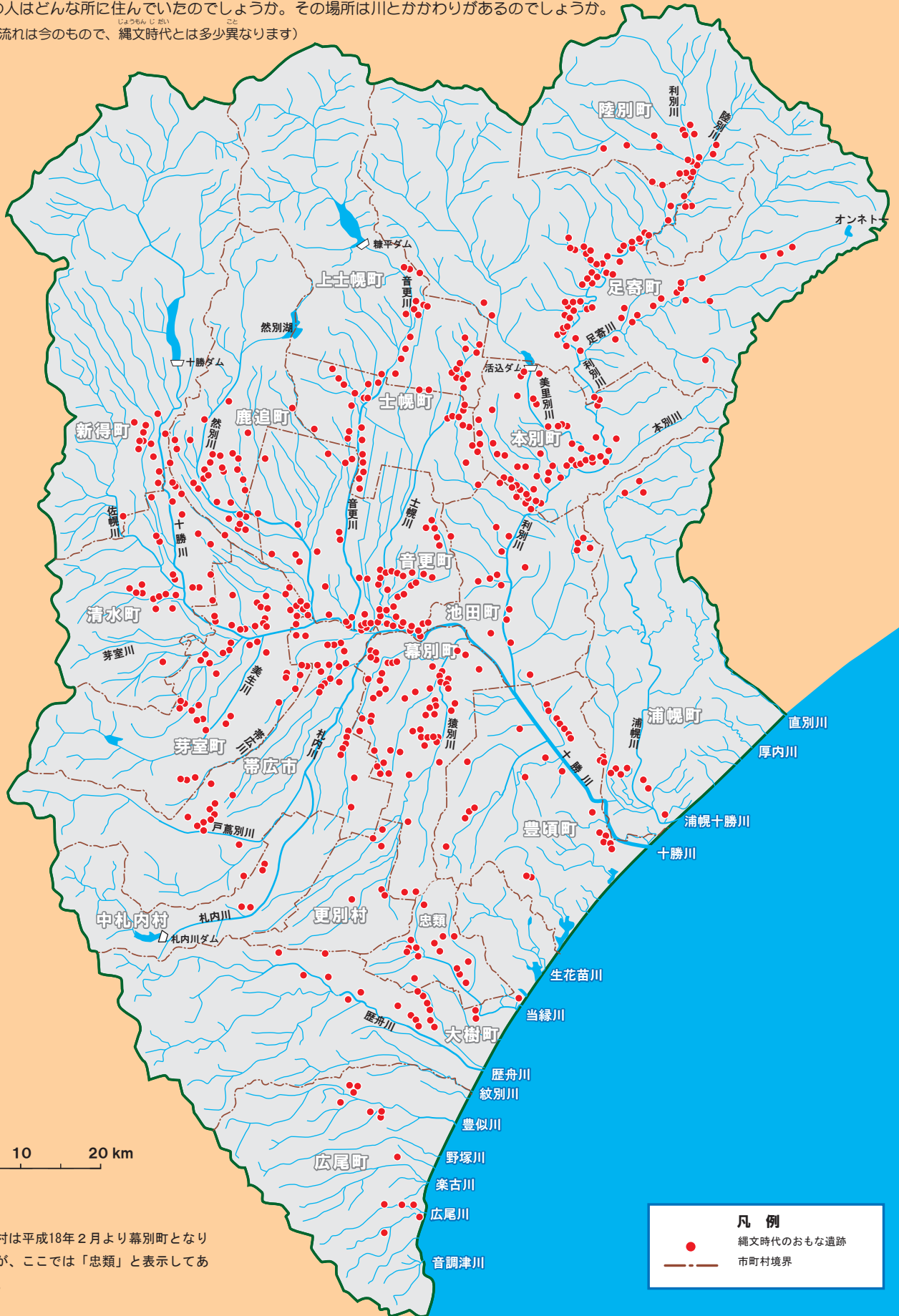
地形と川の流れには深いかわりがあります。
地形が川の流れを決め、川の流れが地形を形づくってきました。



十勝の川と縄文時代の遺跡

(→ 第2章 十勝の先史時代と川 p67)

大昔の人はどんな所に住んでいたのでしょうか。その場所は川とかかわりがあるのでしょうか。
(川の流れは今のもので、縄文時代とは多少異なります)



0 10 20 km

注：忠類村は平成18年2月より幕別町となりましたが、ここでは「忠類」と表示してあります。

凡例	
●	縄文時代のおもな遺跡
---	市町村境界

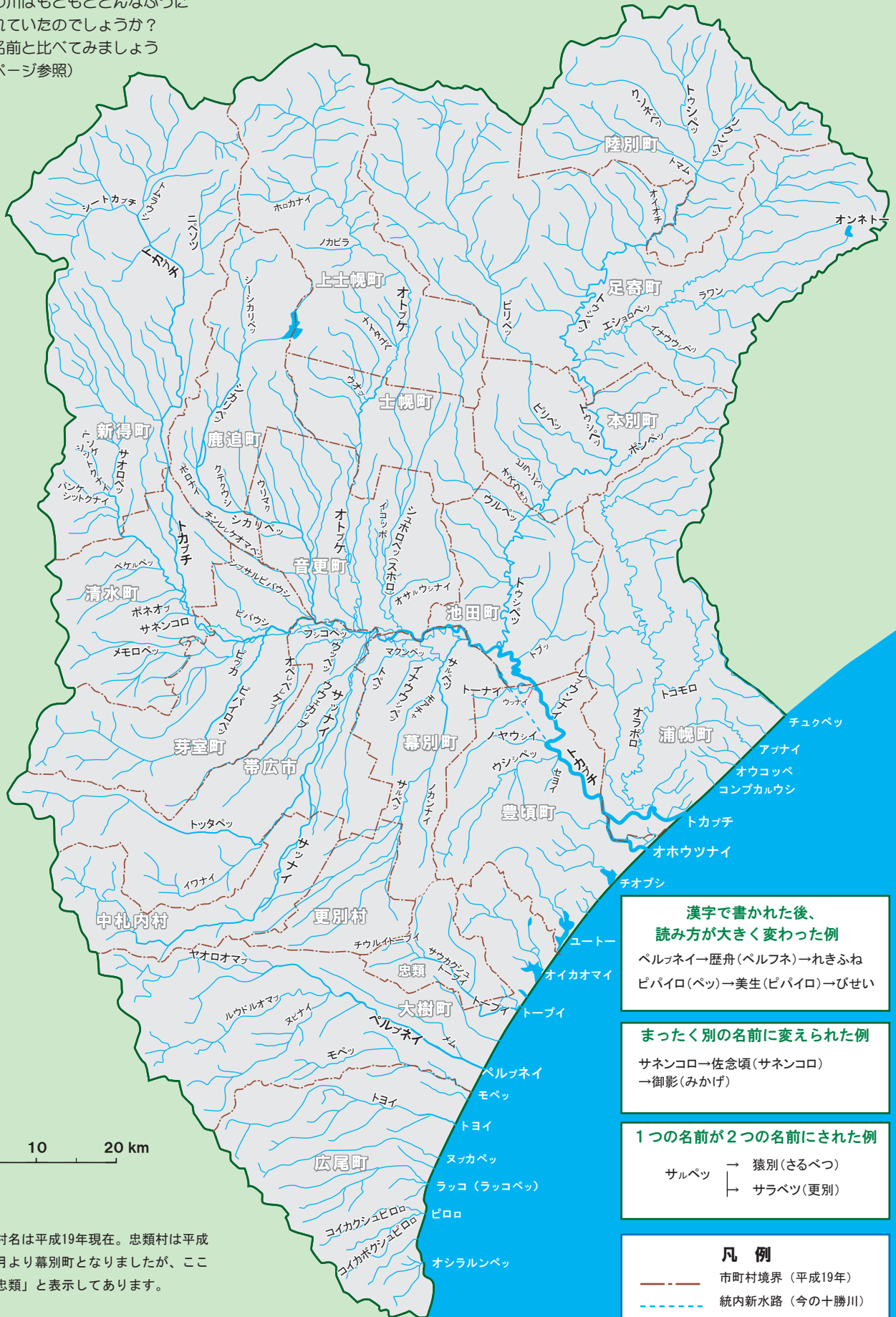
この地図の作成に当たっては、国土地理院刊行の1/200,000地勢図を使用しました。

※ 主な河川名の読み方は左ページ参照

おもな十勝の川のアイヌ語名

(→ 第3章 十勝のアイヌ文化と川 p107)

十勝の川はもともとどんなふうに
呼ばれていたのでしょうか？
今の名前と比べてみましょう
(5ページ参照)



注：市町村名は平成19年現在。忠類村は平成18年2月より幕別町となりましたが、ここでは「忠類」と表示してあります。

この地図の作成に当たっては、国土地理院刊行・所蔵の1/200,000地勢図、1/50,000地形図(明治29年)を使用しました。

参考：「十勝川の川舟文化史 濤標」十勝川川舟文化史『濤標』編集委員会、十勝川川舟文化史『濤標』刊行会、2004
 「トカプチ -十勝アイヌ語地名-」帯広二建会創立50周年編集委員会、2005

地名について開拓者の出身地など

十勝を開拓した人たちがどこから来たのかなどを地名からさぐってみましょう
(ここにあげたのは一部です)

新得町
福山: 福島県と山形県の間
文字から

清水町
讀岐: 香川県の旧国名から
松沢: 宮城県の大松沢から

士幌町
佐倉: 千葉県の前藩名から

音更町
武儀: 岐阜県の武儀村から
矢部: 富山県の地名から

帯広市
稲田町: 「稲」は岐阜県の「稲葉山城」がきっかけ
越前: 福井県の旧国名から
加賀: 石川県の旧国名から
幸福町: 「福」は福井県から
別府町: 岐阜県の地名から

幕別町
五位: 富山県の「五位」村から
南勢: 三重県の旧国名「伊勢」の南部「南勢」から
美川: 愛知県の旧国名「三河」から

注: 忠類村は平成18年2月より幕別町となりましたが、ここでは「忠類」と表示してあります。

※ 地図内のふりがなは省略。主な河川名の読み方は2ページ参照

足寄町
礎: 旧満州(中国東北部)にあった旧日本軍の訓練所名から

茨城: 茨城県から
柏倉: 山形県の柏倉門田村から

向陽: 旧満州(中国東北部)の開拓村の名前から
庄内: 山形県の地域名から
鳥取: 鳥取県から
長野: 長野県から
宮城: 宮城県から

池田町
池田: 旧鳥取藩主の池田家から
高島: 神奈川県の実業家、高島嘉右衛門の名から
青山: 福井県出身の青山奥左衛門の名から

浦幌町
福山: 「福」は福井県から
養老: 岐阜県の「養老の滝」から
吉野: 奈良県の「吉野桜」から

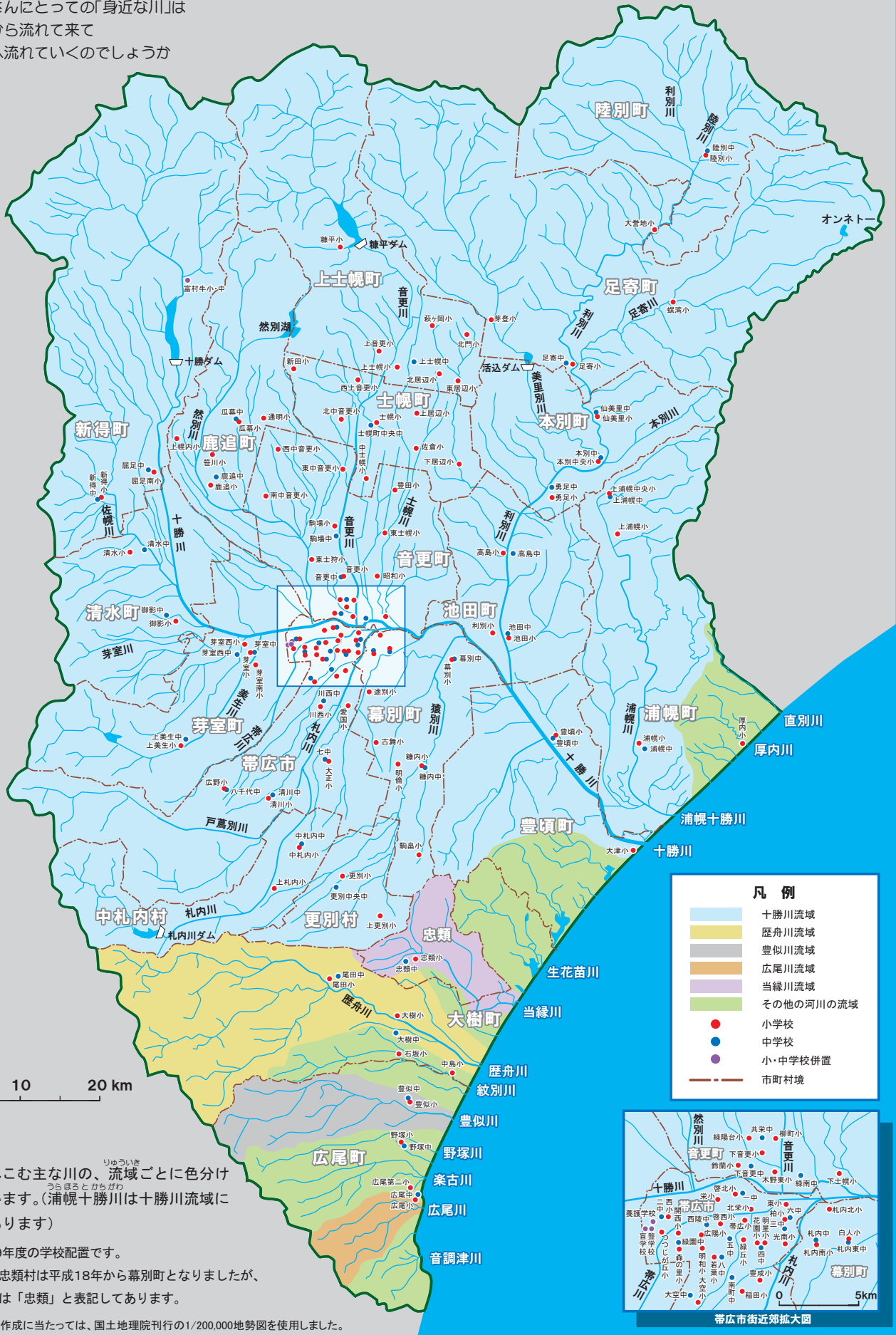
広尾町
尾張: 愛知県の旧国名から
香福: 香川県と福島県の頭文字から
広富: 「広」は広尾から「富」は富山県から

凡例
地名
開拓者の出身などかかわる地名
市町村境界

この地図の作成に当たっては、国土地理院刊行の1/200,000地形図を使用しました。

十勝の川 流域マップ

みなさんにとっての「身近な川」は
どこから流れて来て
どこへ流れていくのでしょうか



凡例

- 十勝川流域
- 歴舟川流域
- 豊似川流域
- 広尾川流域
- 当縁川流域
- その他の河川の流域
- 小学校
- 中学校
- 小・中学校併置
- 市町村境

0 10 20 km

海に流れこむ主な川の、流域ごとに色分け
をしています。(浦幌十勝川は十勝川流域に
入れてあります)

注 平成19年度の学校配置です。
また、忠類村は平成18年から幕別町となりましたが、
ここでは「忠類」と表記してあります。

この地図の作成に当たっては、国土地理院刊行の1/200,000地勢図を使用しました。



※ 流域(りゅういき):ある川に水が流れこむ範囲(はんい)のこと。
※ 地図内のふりがなは省略。おもな河川名の読み方は2ページ参照

この本の内容と特徴、その応用 … 指導者の方へ

この本は、数千万年前、十勝の大地ができることから、人が暮らし、開拓が進み、発展してきた現在までの川の歴史を描いています。川の歴史とはいいながらも、それぞれの時代を表現するため、川とは離れた視点の記述も多くあります。

十勝の川について、そして十勝の自然や文化の成り立ちについて、まとめて学ぶことのできる「十勝の歴史入門」の決定版です。

どこから見ても

気が向くままに、ページを開いてみてください。基本的に、どのページから読み始めても内容が理解できるように、作成してあります（そのため、内容には重複があります）。また、ほかのページに関連事項がある時には、そのページ番号が入れています。

生きた社会科に

この本では、単なるできごとを述べるだけでなく、できるだけそれぞれの時代を生きた「人」の暮らしを描くようにしています。本州中心の「日本史」とは大きく異なる歴史をつくってきた、郷土の先人たちの「生き方」を知ることこそ、生きた歴史を学ぶことになるのではないのでしょうか。

生きた理科に

この本では、人間の歴史だけではなく、「大地の歴史」から述べています。大地の動き、そして古代生物たち（の化石）は、決して本や映像の中にあるのではなく、今私たちの目の前にあり、身近に隠れているのです。

いつも登る坂道や毎年作物が育つ畑の土は、地球の力や川の力でつくられてきたものです。あるいは、数百万年も昔の生き物の化石を、誰もが見つけることができます。

また「考古学」は、遺跡を調べ、発見された土器や石器といった遺物などを科学的に分析することで、大昔の人の暮らしを探っていきます。理科と社会科の先に「ロマン」が待っている学問なのです。

「環境」を学ぶ

伝統的なアイヌ文化、あるいはそれ以前の文化の中で生きていた人たちは、自然とともに暮らしていました。彼らは自然をこわしてしまっただけで生きていけません。そんな彼らが、自然に対してどのように考えていたのか、そして、どのように向かい合い利用していたのかを知ることは、観念的な自然保護ではない、環境問題への深い理解につながることでしょう。

「国際理解」をする

お互いのことを知り合うことこそ、本当の理解です。外国の人に自分たちのことを伝えることも、重要な国際理解なのです。まず、私たちの社会の成り立ちを知りましょう。

また、北海道では、本州とは別の民族文化が花開いています。各地からの移住者もたくさんいます。身近にある様々な文化を知

り、理解することは、そのまま国際理解への第一歩となります。

さらに、アイヌ文化期以前に北海道にすんでいた人々は、本州と交易をおこなっていた上に、サハリンを通じて、北の大陸ともつながりを持っていました。北海道に「日本国」というくくりのなかった時代、今以上にダイナミックな国際交流があったのです。

「地域産業」を学ぶ

現在発展した十勝農業も、開拓者たちの血のにじむような苦勞の末に花開いたものです。また、その努力の結晶である作物は、何万年もかけてできてきた土で育っています。

また、川での漁は、大昔からおこなわれてきました。しかし、毎年秋にもどってくるサケたちは、一時期とても少なくなっていました。そこには多くの悲劇があり、そして新たな技術へのチャレンジがありました。

身近で、具体的な例

歴史はただのできごとではなく、今、目で見て手で触れ耳で聞くことのできるものを調べることで、つくられていくものです。

この本では、各項目に関して、できるだけ具体的な例を載せるようにしています。必ずしも、誰もが体験できることではなく、もう見ることができなくなった例もありますが、実際に五感を使って「触れる」ことで、少しでも歴史を「実感」していただけたら、と考えています。

本来ならば、十勝（の川）全体の例を載せられるといいのですが、どうしても、十勝川中流域を中心とした記述になってしまっています。身近な例が載っている時には、現地で本物を見るためのガイドとして、また、身近な例がない場合には、応用の手助けとして、それぞれ利用していただけたらと願っています。

「歴史」は変わる

「歴史」は、新しい発見があったり、新しい考え方ができると、変わることがあります。ここ数年の十勝や北海道でも、いくつかの新しい発見や研究成果の発表がありました。

この本の作成に当たっては、現在も研究を続けておられる方々にアドバイスをいただき、ある程度新しい知見に基づいた情報を入れるようにしていますが、歴史が書き換えられることで、この本の内容が古くなっていくかも知れません。

過去を知る = 未来を創る^{※1}

第5章「5. まとめにかえて」でも触れていますが、過去を知るといことはこれからを考える上で、とても大切なことです。

私たちの生きる社会は、めまぐるしく変化していく一方で展望を見出しにくい状況になっています。過去をふり返ることは、決して現在から目をそらすことではなく、これから先をどう創っていくかのヒントを探ることであり、過去のできごとにおける原因と結果を知り、シミュレーションをおこなうことでもあります。

未来へ踏み出す時、この本が小さな手助けとなれば幸いです。

※1 過去を知る=未来を創る(かこをしる=みらいをつくる)：孔子(こうし：紀元前6～5世紀の中国の思想家)の有名なことばにも「温故知新(おんこちしん：ふるきをたずねて新しきを知る・ふるきを温めて新しきを知る)」がある。

時をこえて十勝の川を旅しよう！

十勝の川の成り立ちから、川の歴史・文化まで

十勝の川をフィールドとした総合的学習の手引き

大まかな構成

第1章 十勝の平野や川ができるまで (17ページ) — 地質からわかる十勝のこと

第2章 十勝の先史時代と川 (67ページ) — 遺跡からわかる十勝のこと

第3章 十勝のアイヌ文化と川 (107ページ) — アイヌ文化に彩られた十勝のこと

第4章 十勝開拓と川 (153ページ) — 開拓が始まってからの十勝のこと

第5章 発展、今、そして未来へ (203ページ) — 太平洋戦争が終わってからの十勝のこと

この本は、基本的に、過去から現在へ時間経過にしたがって構成されています。

ただし、章立てについては、第1章「地質時代」、第2章「アイヌ文化より前の先史時代」、続いて「アイヌ文化期」「開拓期」「戦後・現代」というとらえ方で分けています。そのため、例えば、第1章と第2章、あるいは第3章と第4章および第5章に関しては、時間的に重なる部分があります。

こうした場合には、同時期のことがらを、それぞれの章で、それぞれの章の視点から述べています。最終氷期についていえば、氷河・カール地形・火山灰・氷期の生き物に関しては第1章に、旧石器時代を担った人間の文化や遺跡に関しては第2章に、それぞれ記載してあります。

その上で、またがる章のどちらにも、背景となることやつながりを持つことについて、重複して述べてあります。

また、総合的学習でよくテーマとして取り上げられる「環境(●)」「国際理解(●)」「地域産業(●)」に関連する場合、目次と各項目トップページに色分けした印をつけてあります。

年代に関しては、原則的に、紀元前のことについては「〇〇年前」、紀元後については西暦によって「〇世紀」または「0000年」、明治時代以降については和暦と西暦で「元号〇年(0000)」と表記しています。

敬称に関しては、歴史上の人物やかなり前に亡くなっている有名人の名では略し、一般人に近い人や存命の人、最近亡くなった人の名にはつけています。(ただし、文学の項目、引用の場合は例外)

漢字は原則として、小学校で習う漢字を使用し、かなだと読みづらい場合(と中→途中、など)や用語、固有名詞、引用文などについてはそれ以外の漢字も使用しました。ふりがなは、用語と固有名詞(十勝・十勝地方・十勝川・北海道・日本を除く)、小学5年生以上で習う漢字をふくむことばなどにつけました。図表内の文字や引用もとの人名、未確認の人名などには、ふっていない場合、あるいは「(?)」をつけてある場合もあります。

いずれについても例外がありますので、ご注意・ご容赦ください。



目次(1)

巻頭マップ	十勝の川と地形 2	十勝の川 流域マップ 6
	十勝の川と縄文時代の遺跡 3	北海道の中の十勝・世界の中の北海道 . . . 7
	おもな十勝の川のアイヌ語名 4	北海道マップ・アジア東北部マップ
	地名についての開拓者の出身地など 5	

この本の内容と特徴、その応用	8
この本のレイアウト例	15
この本の位置づけ	16

第1章 十勝の平野や川ができるまで 17

環境 国際理解
地域産業



●印は、その右項目が、環境(●)、国際理解(●)、地域産業(●)などのテーマとかがわらがある、という印です。

地質時代の年表 18

はじめに どうして昔のことがわかるの?	20
大きく動く大地	23

1. 「海」だった十勝 (~100万年前ころ)

北海道のなりたち	24
① 大きな動物「アショロア」そして「ベヘモ」がいたころ	26
② できていく日高山脈・海ぞいを歩く「デスモステルス」	28
③ 内湾にすむタカハシホタテ	32
④ クジラや貝のすむ海	34

2. 十勝平野が「潟湖」や「湿原」だったころ (100万~78万年前ころ)

① 大噴火した十勝三股	36
② 潟湖や湿原となった「十勝平野」	40

3. 十勝平野が「陸地」になったころ (78万~8万年前ころ)

① 最初の「十勝川」ができる	44
② 川がつくった十勝平野の形「段丘」	46
③ ナウマンゾウ、忠類で沼にはまる	50
コラム 段丘のでき方	49

4. 十勝に「氷河」があったころ (8万~1万年前ころ)

① 「氷河(氷の川)」があった日高山脈	52
② 川が新しい段丘をつくる	54
③ 火山灰の「砂漠」が広がった十勝平野	58
④ マンモス、ナキウサギ、ヤチカンバ、そして人	62
コラム 上流・中流・下流のようすのちがい	65

第2章 十勝の先史時代と川 67

環境
国際理解
地域産業

印は、その右項目が、環境（○）、国際理解（●）、地域産業（■）などのテーマとかがわりがある、という印です。

先史時代の年表 68

はじめに 遺跡はタイムカプセル 70

1. 旧石器時代（2万4千年以上前～1万2千年前ころ）

旧石器時代の自然や人の暮らし 72

日高山脈に「氷河」があったころの暮らし 76

カッターナイフのような替え刃式石器...細石刃 78

島になっていく北海道と人々の暮らし 80

コラム 黒曜石器の作り方 75

炭や花粉でわかる木の種類 81

ひとつの遺跡にある長い歴史 82

十勝縄文の始まり？それとも... 83

2. 縄文時代（1万2千年前ころ～2千5百年前ころ）

縄文時代の自然のようすと暮らし 84

およそ8千年前にあった集落 90

今より暖かかったころの暮らし 94

寒くなったころの「墓地」 96

コラム 土器づくり 88

火起こし 89

縄文時代の川漁 93

縄文時代の墓 98

縄文ファッション 99

3. 続縄文時代・擦文時代（2千5百年前ころ～12世紀ころ）

「縄文の文化」は続く・続縄文時代 100

「さつもん」って何だろう？ 102

麦づくりも始まる擦文時代 104



旧石器時代の石器、「細石刃」。
(帯広百年記念館埋蔵文化財センター)



縄文時代の土器。
(帯広百年記念館)



擦文時代の土器。
(帯広百年記念館埋蔵文化財センター)

目次(2)

第3章 十勝のアイヌ文化と川・・・107

環境
国際理解
地域産業

● ● ●

● ● ●

●

●

● ●

●

●

●

●

●

●

● ●

●

● ●

●

●

●

● ● ●

● ● ●

● ● ●

● ● ●

●

● ● ●

● ● ●

● ● ●

● ● ●

● ● ●

● ● ●

●

●印は、その右項目が、環境(●)、国際理解(●)、地域産業(●)などのテーマとかがわいがある、という印です。

アイヌ文化期の年表・・・・・・・・・・108

- はじめに 擦文～アイヌ文化と「大和」・「元」・・・・・・・・110

1. アイヌ文化の始まりとチャシ

- ① アイヌ文化の全体的な特色・・・・・・・・112
- ② アイヌ文化の広がり・・・・・・・・113
- ③ アイヌ文化期の自然のようす・・・・・・・・114
- ④ 川を見下ろす「チャシ」・・・・・・・・116

コラム 目で見ると自然の大変化・・・・・・・・115

2. 伝統的な暮らし

- ① 川で食べ物をとる・・・・・・・・118
- ② サケを使った料理・・・・・・・・122
- ③ 「道」としての川と「コタン(集落)」・・・・・・・・126
- ④ 「チブ」に乗って川を行く・・・・・・・・128
- ⑤ チセ(家)の建て方と川・・・・・・・・130
- ⑥ 語って伝える・歌やおどりで伝える・・・・・・・・132

コラム シシャモは「スサム」から・・・・・・・・119

魚以外の食べものをとる・・・・・・・・121

「ルイベ(ルイベ)」のあれこれ・・・・・・・・123

サケ皮のくつ「チェブケリ」・・・・・・・・125

とても長い歴史をもつ丸木舟・・・・・・・・129

アイヌ文化の手工芸・・・・・・・・133

3. カムイとともに

- ① 「カムイ」って何だろう？・・・・・・・・134
- ② 「カムイ」としての川・・・・・・・・135

4. 和人とのかかわり

- ① 交易とアイヌ文化・・・・・・・・136
- ② 松前藩の交易支配と「場所」・・・・・・・・137
- ③ シャクシャインの戦い・・・・・・・・138
- ④ 「場所」での支配の「民営化」・・・・・・・・140
- ⑤ 「探検」される十勝・・・・・・・・142
- ⑥ 開拓者たちをむかえ入れるアイヌ民族・・・・・・・・143

5. アイヌ文化の危機、そして新たな発展

- ① アイヌ文化の否定・・・・・・・・144
- ② 乱獲と大雪によるシカの「絶めつ」・・・・・・・・145
- ③ 川でのサケ漁の禁止・・・・・・・・146
- ④ 農民化と「保護」そして農地改革・・・・・・・・148
- ⑤ アイヌ文化の新たな発展・・・・・・・・150

コラム 晩成社とアイヌの人々とサケ・・・・・・・・147

農業経営に成功したアイヌの人もいる・・・・・・・・149

十勝のアイヌ民族に関する口承と記録・・・・・・・・151

第4章 十勝開拓と川 153

環境 国際理解 地域産業

●印は、その右項目が、環境(●)、国際理解(●)、地域産業(●)などのテーマとかがわりがある、という印です。

十勝開拓の年表 154

はじめに 北海道、そして十勝の分かれ方 156

1. 生まれた土地をはなれて十勝へ

- ① 太平洋沿岸から内陸へ 158
- ② 受刑者たちが開いた「大津街道」 160
- ③ 開かれる開拓地への「入口」 162
- ④ どうして生まれた土地をはなれたの? 164
- ⑤ 団体をつくって開拓する 166
- ⑥ 生きるための学校、学校の中の生活 168

- コラム 赤衣着物の受刑者たち 161
 許可をもらわないで開拓 163
 開いても自分の土地にはならなかった 165
 土間にむしろをしいて 169
 こおって足が入らないくつ 169
 十勝へ来る先生も大変だった 169

2. 進む開拓と川

- ① 今とはちがう明治時代の「十勝川」 170
- ② 開拓者の暮らしと川 172
- ③ サケの人工ふ化 174
- ④ 川は「幹線道路」…川舟 175
- ⑤ 川をわたるための「渡船」 176
- ⑥ 川が運ぶ木材…流送 180
- ⑦ 渡船から木橋、そしてコンクリートの橋へ 182
- ⑧ 鉄道の開通、消えていく川舟 184
- ⑨ 戦後も進んだ開拓 185

- コラム 朝夕の魚とリ 173
 海の道と川の道 178
 さようなら旧十勝大橋 183

3. 開拓者をおそう洪水・そして新水路づくりへ

- ① 川に飲みこまれる開拓地 186
- ② 十勝川切りかえの対立 188
- ③ 人がつくった十勝川…統内新水路 190
- ④ 水田に水が引けるよう…千代田堰堤 194

- コラム 明治31年の大洪水の思い出 187
 アイヌの人たちによる救助 187
 古い地形図を見る 189
 “この川さえ無かったらなあ” 192
 米を食べるのは特別なこと 195

4. 開拓期は戦争の時代

- ① 人が、そして馬も戦場へ 196
- ② 十勝空襲と敗戦 197

5. 開拓者の心や思いと川

- ① 開拓者たちの信仰 198
- ② 水の神、灯ろう流しや雨ごい 200
- ③ 和人がつけた川の名前 201

第1章 十勝の平野や川ができた理由

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん

目次(3)

第5章 発展、今、そして未来へ・・・203

環境 国際理解 地域産業



●印は、その右項目が、環境(●)、国際理解(●)、地域産業(●)などのテーマとかがわりがある、という印です。

戦後の「川」年表 204

コラム 川を管理するための法律…河川法 205

1. さらに変わっていく十勝の川

- ① 利別川・川合新水路 206
- ② 「十勝川が止まった!」: 十勝川を大津川に切りかえる 208
- ③ 十勝川をひとつの流れに 210
- ④ 農業のための水、水道や電気のための水 214

コラム 洪水から暮らしを守る…治水工事 211

2. 十勝の発展と環境の変化

- ① 湿地の減少と生き物 216
- ② 蛇行の減少と生き物 217
- ③ 洪水の減少と生き物 218
- ④ 人が持ちこんだ生き物…外来種 219

3. 川とのつきあい方

- ① 川のおそろしさから身を守るために 220
- ② 魚を釣ろう! 222
- ③ 楽しむための河川敷 224
- ④ 流れに乗って…カヌーなど 226
- ⑤ 自然を残す場所として 228

コラム 四十年過ぎても忘れられない悲しみ 221

楽しさの中で川を知る 227

まだまだ問題も多い 229

4. 川とかわる文化

- ① 川を歌おう!…川の入った校歌 230
- ② 十勝が描かれた文学 232
- ③ 写真や絵の題材として 234
- ④ 流木や河原の石のアート 235
- ⑤ 十勝の川とサケ 236
- ⑥ 川で活動をする人たち 238

コラム 北海道以外での川とのつきあい 237

活動団体同士をつなぐ 239

5. まとめにかえて

- ① 川はどこにあるの? 240
- ② 川のはたらき 242
- ③ むかしの川とのつきあい 245
- ④ これまでの川とのつきあい 246
- ⑤ これからの川とのつきあい 247

博物館や資料館など 250
参考資料 253

用語解説 258
さくいん 265

この本のレイアウト例

1つの項目が4ページに分かれている例。構成は、項目によって多少異なり、また、1ページだけ、2ページだけ、3ページだけの場合があります。

ミニインデックス：関連テーマ

最初のバックが白いページ：基本的なこと

バックにうすい色つき：具体例や身近な例



p : かかわりのあるページ

しらんがい ようご がいせつ
下欄外：用語解説やそのことばにまつわる話

Qのマーク：観察・体験時のポイント

カラーインデックス：章を見つけやすく



地図：おおまかなアクセス



もう少し細かいこと：より詳しいことを解説

そのほか、基本的な構成に入りきれないことがらについて「コラム」に述べてあります。

環境
国際理解
地域産業

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

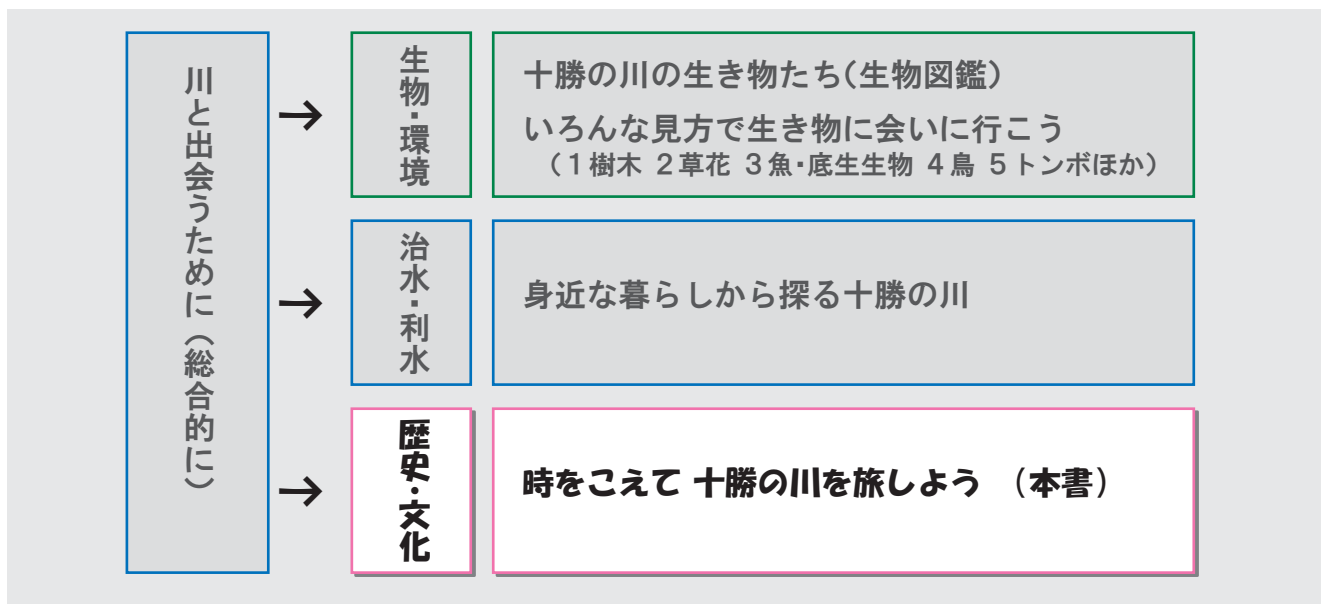
第5章 発展そして未来へ

用語

さくいん

この本の位置づけ

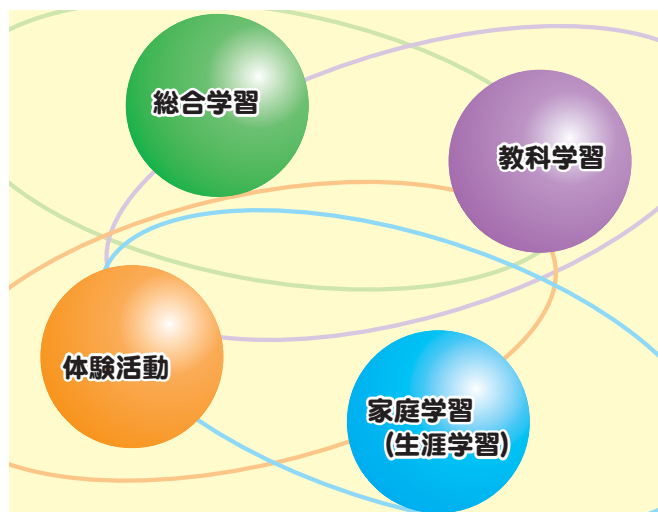
「十勝の川をフィールドとした総合的学習の手引き」のシリーズ構成



この本は、「十勝の川をフィールドとした総合的学習の手引き」シリーズのうち、「総合編」「生物・環境編」「治水・利水編」に続く「歴史・文化編」にあたります。

この「歴史・文化」編では、十勝の歴史・文化に大きな役割を果たしてきた河川を中心に、十勝管内の地形の成り立ちから、人々が暮らし始め現在に至った歴史について取りまとめています。

総合学習の手引書として、教科学習の応用として、あるいは体験活動の基礎資料として、また、家庭学習での参考資料として、様々なかたちでの活用ができるような内容を目指しています。



帯広開発建設部の「十勝の川をフィールドとした総合的学習の手引き」シリーズ



「川と出会うために」

川をテーマとした学習や活動に関する、基本を紹介。A4版。

「十勝の川の生き物たち」

十勝の川やその近くで、比較的良く目にする生き物を紹介。B6版。

「生き物に会いに行こう」

川やその近くにいる生き物の、見る時のポイントを紹介。A5版。

「身近な暮らしから探る十勝の川」

治水や利水を、ふだんの暮らしと川とのつながりを通して考える。

※ お問い合わせは、帯広開発建設部・治水課 0155-24-4121 (内線279) まで。
また、開発建設部のホームページでも、ごらんいただけます。

<http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/sougou/pamphlet/pamphlet.html>
http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/sougou/seibutsu_guide/index.html